

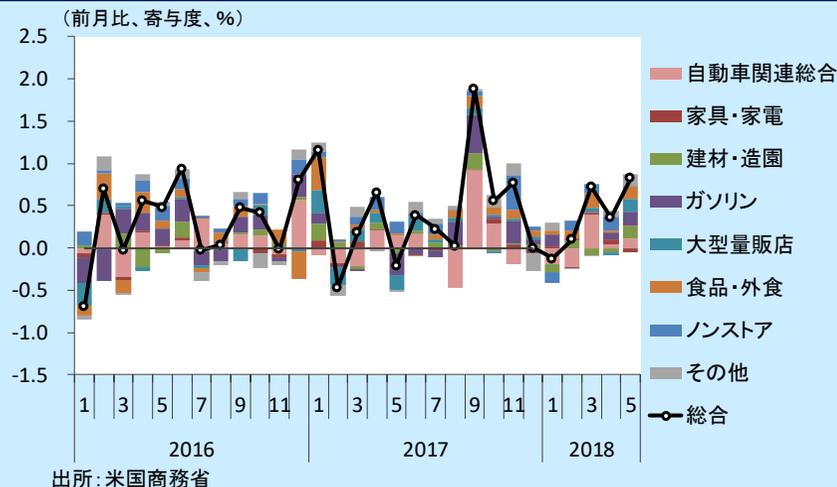
米国：小売売上高（2018年5月）

—小売売上高は4ヶ月連続の増加—

MRI Daily Economic Points

June 15, 2018

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 ガソリン価格



図表3 新車販売台数



評価ポイント

今回の結果

- 18年5月の米小売売上高(6/14日公表)は、前月比+0.8%と4ヶ月連続で増加。自動車やガソリン、建材を除いたコア売上高も同+0.6%と増加した。
- 内訳をみると、主要13品目のうち10品目が前月から増加。中でも、建材・造園支出(同+2.4%)や、ガソリン価格の上昇を反映したガソリン支出(同+2.0%)が大幅に増加した。ガソリン価格は、17年初から上昇を続けている(図表2)。他にも、衣服支出(同+1.3%)に加え、外食産業(同+1.3%)や大型量販店(同+1.2%)の売り上げなども増加し、全体を押し上げた。

基調判断と今後の流れ

- 消費の基調は、底堅い。背景には、①良好な雇用・所得環境や②高水準を維持している消費者マインド、③所得税減税がある。先行きも、上記の①、②、③に支えられ、堅調さを維持すると見込む。
- 下振れリスクは、第1に、トランプ政権の保護主義的な動きである。トランプ大統領は、知的財産権侵害を理由に、約500億ドル相当の中国からの輸入品に追加関税を課すことを承認した。①保護主義的な動きに伴う株式市場の混乱が、マインド悪化や逆資産効果につながる場合などには、消費が鈍化しかねない。また今後、②輸入関税の引き上げが、国内物価の上昇につながった場合には、消費が抑制されかねない。
- 第2に、FRBの政策金利引き上げに伴う消費の冷え込みである。6月のFOMCで、政策金利の誘導目標値は1.75~2.00%に引き上げられた。③政策金利の上昇は、消費者向け貸出金利の引き上げにつながるため、半年から1年程度のラグを伴い、自動車などの耐久消費財の消費が鈍化する可能性がある(図表3)。